

静岡県立大学附属図書館

## シリーズ 私の一冊の本

薬学部 竹内 英之 先生

Sidney Sheldon 著

## 『 Master of the Game 』

Grand Central Publishing

シドニー・シェルダンの代表作「Master of the Game」は、数世代にわたる一族の栄光と野望を描いた壮大なフィクションです。南アフリカのダイヤモンド鉱山からアメリカの巨大企業へと発展するブラックウェル家の物語は、成功と欲望、愛と裏切りの濃密な人間ドラマで彩られています。物語の中心にいるのは、圧倒的なカリスマを放つ女性実業家ケイト・ブラックウェル。彼女の人生の選択や冷静な判断力は、「人生において本当に手にしたいものとは何か」「家族との関係はどこまで守るべきか」といった普遍的な問いを、読む者に突きつけてきます。

この作品は1980～90年代、日本でも英語教材として大いに注目されました。邦題は「ゲームの達人」。簡潔な英語とテンポの良さ、ドラマチックな展開が、英語学習者の間で高く評価されたと今の私は理解しています。しかし、その頃の私はこの本を読むことはありませんでした。当時はすでにテレビゲームを“卒業”しており、「ゲームの達人」というタイトルを見て、てっきりボードゲームかテレビゲームの話だと思い込んでしまったのです。内容とは無関係な先入観が、良書との出会いを長く遠ざけていました。

この作品と再会したのは、数年前、名古屋で働いていたときのことです。ある日、洋書の品ぞろえが豊富な丸善の店内を何気なく歩いていたとき、「Master of the Game」というタイトルが目にとまりました。昔どこかで聞いたことがあるような気がして手に取ってみたその瞬間、「これはあの“ゲームの達人”かな？」と気づいたのです。実際に原著を読み始めてみると、その面白さに驚かされました。感情の揺れを丁寧に描く人物描写や意外な展開の連続で、まるで映画のような臨場感で、夢中になってページをめくる自分がいました。

先々の人生を考える時期にある大学生の皆さんにとって、この作品は単なる娯楽小説を超えた意味のあるものになるかもしれません。自分の人生をどう生きるか、何を選び、何を犠牲にするか。そういった本質的なテーマを、手に汗握る展開の中で自然に考えさせてくれる力があると思います。

ちなみにひとつだけ注意点があります。この本は、試験前の時期に読み始めるのはおすすめしません。気がつくといく時間も経っていて、勉強そっちのけになるおそれがあるからです。読むなら、時間に少し余裕のあるときにどうぞ。